神奈川県考古学会

考古かながわ 第3号

1992年9月6日

考古学と民俗学

相模民俗学会会長
和田 正洲

神奈川県考古学会が発足したことは大変意義深い。民俗学の立場からは民俗学、考古学共通の地域的問題の有無など両者の関連がより明らかりなることを期待したい。かつて赤星直忠氏存命中、同氏からたびたび県下の発掘例から県下の墓制、ことに両墓制についての意見を聞いていたので、自由な立場からの見解を、相模民俗学会誌「民俗」に載せてほしいと要望していたが、発掘に忙しい同氏のことゆえ、ついに原稿が届かず、今から考えればまことに残念なことであった。

シンポジウムなどというと、その準備等で大変であるが、民俗、考古両地方学会でなら問題点の討議や意見交換などは比較的簡単なのではないか。まして現在は学際的研究が称えられている時代であるが、これを機会により一層の努力がほしいものだ。最近でも「国立歴史民俗博物館研究報告」に、福田アジオ氏が両学問の性格、特長から新しい学問分野の発展を考察していたが、まず考古、民俗両地方学会が中心となった物質文化史などの分野が開かれるとよい。

1990年刊の「栃木県考古学会誌」第十二集（総頁、250頁）に柏村祐司「下野・南会津地方における罠猟について」という論文があった。これは栃木県から福島県にわたる山岳地帯の狩猟民の罠猟について詳細な調査報告を述べ、同時に生活技術の立場から縄文時代罠猟を考察しているもので参考になった。柏村氏は栃木県立博物館の民俗担当学芸員であるが、民俗学の立場から考古学分野への積極的発言として注目される。なおこれについては「国立民族学博物館国内資料調査委員・調査報告集」13（1992年）に報告した。かつて相模民俗学会「民俗学論叢」第2号（1980年12月）に小林梅次氏が「古代住居の屋根と民俗学」と題して復元家屋の屋根について屋根葺き技術の面から問題点を指摘した。記憶で申し訳ないが、茅屋根の葺き方と腐敗、屋内では炉と火＝屋根に引火しやすいなど指摘してあったと思うが、考古学者の読者が少なかったためか、あまり問題にされなかったらしい（川口徳治朗氏談）。

今後定期的会合などによって情報交換を密にしていけば民俗学、考古学双方にとって有益なことはいうまでもないと思うのである。

平成４年度神奈川県考古学会総会報告

平成４年度神奈川県考古学会総会は、去る５月３日、多数の会員の出席の中で横浜市開港記念館講堂に於いて開催されました。

総会は以下の次第によって行われました。

●開会

●会長挨拶

●議事

議長選出

議事1．平成3年度事業報告の承認

議事2．平成3年度収支決算報告の承認

〔会計監査報告〕

議事3．平成4年度事業計画（案）の議決

議事4．平成4年度予算（案）の議決

●閉会

日野一郎会長の挨拶の後、会則第10条３によって議長に会長の日野一郎氏を選出して議事に入った。

各担当委員による議事の説明、報告を基に平成３年度の事業報告・収支決算報告の承認と平成４年度の事業計画・予算が議決された。

最後に、副会長の小出義治氏の挨拶で無事に総会を閉会した。

続いて、江坂輝弥氏を講師として「神奈川県の貝塚調査の思い出」と題する特別講演が行われた。

会　長　挨　拶

議事1.平成３年度事業報告

(1)　遺跡調査・研究発表会の開催について

会の発足後、初めて主催した「第15回　神奈川県遺跡調査・研究発表会」が平成３年９月29日、横浜市教育文化センターで開催された。

(2)　研究誌『考古論叢　神奈河』第１集の刊行について

会の研究誌『考古論叢　神奈河』第１集が、平成４年３月31日に刊行された。Ｂ５版の本文106頁で、700部が印刷された。

(3)　連絡誌『考古かながわ』の刊行について

第１号は平成３年９月７日（500部）、第２号は平成４年３月30日（700部）に刊行された。Ｂ５版の８頁仕立てを、会員全員に送付した。

(4)　遺跡見学会の開催について

平成３年９月19日に『三浦半島の縄文時代の貝塚』の見学（参加者約50名）が、平成４年２月２日に『綾瀬市吉岡遺跡』の見学（参加者約50名）が実施された。

(5)　講演会『考古学の探求』の開催について

初めての講演会が平成４年３月29日に川崎市市民ミュージアムにおいて、白石太一郎氏と桜井清彦氏を講師にして開催（参加者80名前後）された。

(6)　役員会について

役員会は、平成３年７月５日と同年10月18日（以上県埋蔵文化財センター）、平成４年３月５日（県政総合センター）の合計３回が開催された。

議事2.平成３年度収支決算報告

平成３年度収支決算報告については、４頁に掲載した。また、〔会計監査報告〕については、３頁に掲載した。

議事3.平成4年度事業計画

(1) 遺跡調査・研究発表会の開催について

「第16回　神奈川県遺跡調査・研究発表会」を平成4年9月27日（日曜日）の午前9時30分より、横浜市開港記念会館で開催を計画している。

発表予定遺跡は、旧石器時代から近世までの11遺跡の他に、特別講演（講師1名）を予定している。

(2) 研究誌『考古論叢　神奈河』第2集の刊行について

会の研究誌『考古論叢　神奈河』第2集については、第1集同様、B5版で本文100～120頁前後を予定している。700部印刷。掲載論文等は5本前後を予定しているが、縄文・古墳時代及び奈良・平安時代等を対象とした原稿を期待している。投稿を希望される方は、平成4年8月末日までに、編集委員（担当・村田文夫）までお申出下さい。

(3) 連絡誌『考古かながわ』の刊行について

年2回の刊行を予定している。B5版の8頁仕立てを700部印刷し、会員全員に送付する。第1回（通算3号）は、平成4年9月上旬に総会報告や遺跡調査・研究発表会の内容連絡を中心としたものを予定。第2回（通算4号）は、平成5年3月上旬に遺跡見学・研究発表会の報告や次回総会の内容連絡を兼ねたものを予定。

(4) 遺跡見学会の開催について

年2回を県下で調査中の遺跡あるいは指定史跡等で考古資料が実見できる施設等の見学を計画している。第1回は、『県央部の古墳を訪ねて』伊勢原市・秦野市に於いて平成4年12月中旬の日曜日に計画している。第2回は、『県東部を訪ねて』横浜市・川崎市に於いて平成5年2月中旬の日曜日に計画している。

(5) 講演会『考古学の探究』（その2）の開催について

第1回と同様に、神奈川県考古学会と川崎市市民ミュージアムと共催で、川崎市市民ミュージアム映像ホールに於いて、平成5年3月中旬の日曜日に計画している。

(6) 役員会について

役員会は、平成4年4月22日（県政総合センター）で開催した。以後、随時開催する予定である。

会計監査報告

神奈川県考古学会平成3年度の収支決算報告を監査した結果、公正かつ適正であることを認めます。

平成4年4月20日

監事　伊東秀吉　㊞

監事　土井永好　㊞

★会費納入のお願い

平成4年度の会費（3000円）納入にご協力お願いいたします。遺跡調査・研究発表会や遺跡見学会の開催時にも受け付けいたしますが、郵便振替などもご利用のうえ、お早めに納入ください。《事務局》

●郵便振替　横浜4－71208
神奈川県考古学会

神奈川県考古学会1991年度決算報告

〈収入〉

(単位：円)

節	決算額	予算額	説明
会費	1,242,000	750,000	1991年度会費／3,000×411＝1,233,000 1992年度会費／3,000× 3 ＝9,000
機関誌等売上	444,900	1,490,000	「発表会要旨」売上・会員／1,000×192＝192,000・会員外／1,200×210＝252,000、「考古かながわ」売上・会員外／150× 6 ＝900
雑収入	8,300	10,000	会場整理費／500×15＝7,500 参加資料代／200× 4 ＝800
寄付	47,072	0	
繰越金	135,209	0	準備会より引継金
合計	1,877,481	2,250,000	

〈支出〉

(単位：円)

節	決算額	予算額	説明
報償費	120,000	90,000	講師謝礼／30,000× 4 ＝120,000
賃金	92,500	125,000	アルバイト／5,000×18.5＝92,500
需要費	670,948	1,782,000	
(消耗品費)	(45,948)	(87,000)	文具・テープ・コピー代等
(印刷・製本費)	(618,000)	(1,645,000)	考古かながわ1(500)／72,100、考古かながわ2(700)／82,400、発表要旨(700)／433,500、ポスター／(300)30,000
(会議費)	(7,000)	(50,000)	賄
役務費	114,032	133,000	事務局連絡／16,998、振込費／1,442 連絡誌郵送費　1回／22,320 連絡・案内／73,272
使用料	25,560	70,000	会場借上げ（総会2回分）
会場設営費	41,723	50,000	発表会準備（実行委員会分）
合計	1,064,763	2,250,000	会場借上げ（総会2回分）

1991年度収入(￥1,877,481)－1991年度支出(￥1,064,763)＝収支差額(￥812,718)は次年度へ繰越

神奈川県考古学会1992年度予算

〈収入〉

(単位：円)

節	決算額	前年予算額	説明
会費	1,233,000	750,000	3,000×411名＝1,233,000
機関誌等売上	1,130,000	1,490,000	会誌「論叢神奈河」売上・会員／1,800×250＝450,000、会員外／2,300×100＝230,000、「発表会要旨」売上・会員／1,000×250＝250,000、・会員外／1,200×150＝180,000、「考古かながわ」売上・会員外／200×50＝10,000、講演会会員外向け資料代／10,000
繰越金	812,718	0	
雑収入	4,282	10,000	会場整理費等
合計	3,180,000	2,250,000	

〈支出〉

(単位：円)

節	決算額	前年予算額	説明
会議費	120,000	50,000	会議資料代／20,000、会議費／20,000、会場借上げ／40,000、講師謝礼／40,000
会誌発行	1,472,000	1,306,000	会誌「論叢神奈河」印刷／1,200,000、連絡誌「考古かながわ」印刷／170,000、発送費／102,000
普及・啓発	180,000	80,000	講師謝礼／80,000、会場借上げ／30,000、会議費／10,000、会議資料代／20,000、見学会資料代／15,000、講演会資料代／25,000
発表会	660,000	580,000	発表要旨印刷／500,000、会場借上げ／60,000、講師謝礼／40,000、設営費／60,000
事務局費	315,000	0	賃金／125,000、通信費／100,000、消耗品費/90,000
予備費	433,000	234,000	
合計	3,180,000	2,250,000	

第16回神奈川県遺跡調査・研究発表会のお知らせ

1992年度の遺跡調査・研究発表会を、下記の内容・要領で開催致します。皆様おさそい合わせのうえ、多数ご参加ください。

◦**日　時**　1992年9月27日(日) 午前9:30より〈受付け開始 9:15〉

◦**場　所**　横浜市開港記念会館（横浜市中区本町1－6　☎045-671-3419)

発　表　会　次　第

Ⅰ　開会のあいさつ〈9:30〉……日野一郎

Ⅱ　発　表〈午前の部〉

1．綾瀬市吉岡遺跡群……白石浩之・砂田佳弘
—縄文時代草創期の神子柴型石斧と石槍の製作址—

2．小田原市内における関東ローム層の調査……山口剛志・諏訪間順・戸田哲也・小林義典
—先土器時代終末期の礫器多数を出土した山神遺跡他—

3．秦野市東開戸遺跡の調査……安藤文一
—敷石住居を含む縄文時代中期の集落から翡翠、琥珀の大珠が出土—

4．寒川町倉見日本鉱業㈱ひかり社宅内遺跡……木村　勇・田村良照
—弥生時代中期の大形竪穴を含む集落と同終末期の環濠集落—

5．伊勢原市石田・細屋遺跡……中村喜代重
—弥生時代中～後期の環濠集落に始まり平安時代に及ぶ集落と古墳時代前期の方形周溝墓—

6．池子遺跡群……長谷川厚・山本暉久
—弥生時代の木器各種、古墳時代の石製模造品、古代の鞍・木鞜などが出土—

Ⅲ　記念講演

「金海市大成洞古墳の調査」〈13:00〉……申　敬澈(慶星大学校助教授)

Ⅳ　発　表〈午後の部〉

7．海老名市相模国分僧寺・尼寺跡の調査……滝澤　亮・須田　誠
—僧寺の僧坊址、尼寺の鐘楼・経堂・金堂と推定される遺構を検出—

8．鎌倉市大倉幕府周辺遺跡の調査……馬淵和雄
—頼朝、頼家、実朝の三代の将軍の居館であった大倉幕府に関わる大跡、築地塀—

9．山北町河村城跡の調査……石丸　熙・関　恒久・安藤文一
—戦国期山城の典型的な廓の全容を明かす—

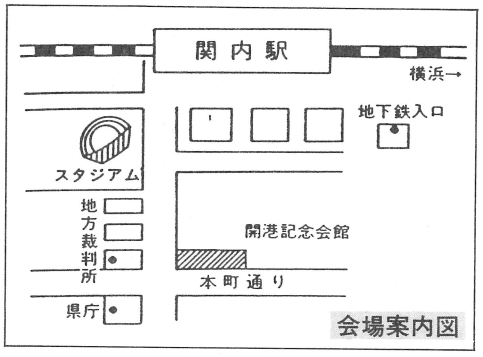
10．鎌倉市今小路西遺跡……河野眞知郎
—町屋と武家地の様相から中世鎌倉の都市構造を解明する—

11．厚木市東町遺跡……平本元一
—近世・近代の厚木宿の宿場町を発掘、地震などの災害の跡がみられる—

Ⅴ　閉会のあいさつ〈16:10〉……小出義治

〈文献交換会〉

当日、文献交換会が行われます。県内各地で最近刊行された調査報告書など、考古学関係の文献が持ち寄せられますので、合わせてご案内します。なお、文献交換を希望される団体は、ハガキに代表者名、連絡先、交換希望文献名を記入のうえ、9月20日までに考古学会事務局まで申し込んでください。



❖❖❖❖❖❖ 新刊紹介 ❖❖❖❖❖❖

矢部良明 著 『**中国陶磁の八千年**』
514頁　平凡社　7800円　1992年3月

東京国立博物館陶磁室長の著者が、里文出版社の雑誌『目の眼』に発表してきた中国陶磁器に関する52本の論文をまとめて、このたび出版された。昭和53年初版の佐藤雅彦著『中国陶磁史』と同じ体裁を受け継いでいるが、この著書が絶版になって久しい今日、矢部氏の本書が出版されたことはまさに当を得たものと言えよう。

本書は、第Ⅰ章「原始美術時代の土器」の新石器時代、第Ⅱ章「豪族の時代の陶磁器」の殷から漢時代、第Ⅲ章「貴族の時代の陶磁器」の三国時代から盛唐、第Ⅳ章「市民の陶磁器と士大夫の陶磁器」の晩唐から金代、第Ⅴ章「民窯と官窯」の元から清代で構成されており、各章の根底には「形を通して美を見、その美の向こう側に人間を見、またその向こうに歴史を見」ていく著者の一貫した信念が流れている。

厳選された写真の対比的な配置、読み難い地名・氏名・専門用語に付された適切なルビの配慮は心にくい程までに行き届いて、読む者を決して飽きさせない。むしろ読むというよりも滔々とした氏の声となって聞こえ、目で楽しみ、活字で聞く講演のようである。　**(國平健三)**

織笠　昭・織笠明子・相田　薫 編
『**埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書―上草柳遺跡群・台山遺跡簾―**』132頁
大和市文化財調査報告書第48集 1992年3月

いま全国の至る所で膨大な量の考古資料が発掘されている。これをどう保管活用するかは焦眉の急務であり、21世紀への課題でもある。では実際に資料の保管状態はどうなっているのだろうか。ここに全国共通の悩みがある。資料を実見したいと思い保管展示施設へ行っても、目的とするものを見出すことが困難なことが少なくない。誰がいつ来てもすぐ実見できるように保管するためのスペースや人手・予算等の問題が山積しているからである。

大和市教育委員会では筆者らや東海大学学生諸君と共に、特に見学希望の多い先土器時代から縄文時代草創期資料の保管活用のための整理を開始した。その経過を示し、実見上の手引き書としたのが本書である。砕片のひとつひとつまで保管状態に対応した一覧表の示されたことはおそらく全国初のことだろう。

保管と活用の方法を「考古学の方法」として確立するためにも、一人でも多くの方に本書を手にしながら資料を見ていただき、今後の改善のためにご意見を賜りたい。　**(織笠　昭)**

遺跡見学会『海老名の歴史を訪ねて』

海老名市内にある古墳から古代そして中世にかけての主要遺跡を見学します。

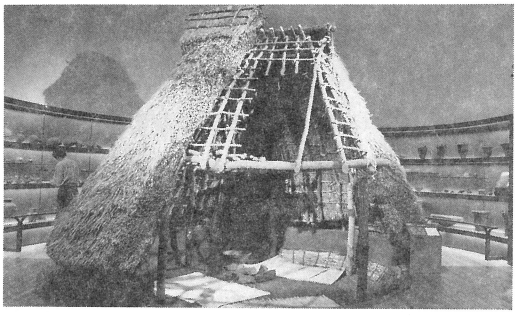
- **日　時**　1992年12月6日（日）小田急線海老名駅南口ロータリー前（9:30集合～16:00解散）
- **コース**　中世上浜田遺跡→三塚古墳→瓢箪塚古墳→温故館→国分寺→国分尼寺→秋葉山古墳→海老名駅解散
- **申込先**　11月13日（金）までに62円切手を同封し、住所・氏名・年齢を記して事務局まで申し込んでください。

情報案内

〈施設案内〉

大磯町郷土資料館

神奈川県立大磯城山公園内にあり、かつては旧三井財閥総本家の別荘地があった所で、面積は約7ha、自然を多く残す公園として親しまれています。資料館は「湘南の丘陵と海」をテーマに1988年10月に開館されました。



原寸大の横穴墓の模型や公園内より発見された縄文時代後期の竪穴住居址の復元模型、宿場や海水浴場・別荘などの関連資料、漁業・農業関係資料などを常設展示しています。また、各コーナーにはモニターを設置し、レーザーディスクによる映像を流しています。特に大磯の民話は人気があります。

このほか、特別展や企画展、歴史講座や自然観察会など普及行事にも力を入れています。

交通案内（JR東海道線大磯駅下車・神奈中バス湘南大磯住宅線、虫窪線で城山公園前下車 5分。駅より徒歩30分〔2km〕）　月曜日・祝祭日休館

〈発掘情報〉

南葛野遺跡

遺跡は藤沢市域（藤沢市葛原）の長後と用田を結ぶ用田バイパス予定地内にあり、先年調査された慶応義塾藤沢校地内遺跡の北方に位置します。幅23m、長さ337mが調査範囲で、6月中旬から来年3月までの予定で行われています。

これまでに条痕文土器や爪形文土器の破片、礫器、尖頭器、フレイク、棒状礫など縄文時代早期および草創期の遺物が検出されています。

〈催し物〉

「文化財展――縄文時代草創期の藤沢――」

近年、藤沢市内で発掘された草創期の遺跡、遺物を紹介し、その文化を知る。

展示遺跡　南鍛冶山遺跡・慶応義塾藤沢校地内遺跡・柄沢遺跡・代官山遺跡他

期　間　1992年11月3日（火）～ 11月22日（日）

会　場　ＪＲ藤沢駅北口駅ビルルミネ６Ｆ市民ギャラリー

考古かながわ　第3号

発　行　神奈川県考古学会
発行日　1992年9月6日
編集者　伊藤　郭、川口徳治朗、小宮恒雄、後藤喜八郎、塚田順正
事務局　東海大学文学部考古学研究室内
〒259-12　平塚市北金目１１１７
郵便振替　横浜４－７１２０８
神奈川県考古学会
印刷所　東邦印刷株式会社